

## 【(6) 児童生徒の反応に対する対応】

### ①「児童生徒の発言を生かして学習を進めている」

#### 《つまづきの背景》

J 言語表現の困難さ、K イメージすることの困難さ

#### 《解説》

子どもが生き生きと学習に参加している授業では、いろいろな子どもが教師の発問に応じて発言したり、課題に集中して取り組んだりしている状況が見られます。

学級の中には、自分の言いたいことを言葉でうまく説明できなかったり、発言内容に自信がなかったり、間違えることを恐れたりして自分の意見を発表するのが苦手な子どもがいる場合があります。言葉でうまく表現できない子どもや、自信のなさそうな子どもが発言するときに、教師が言葉を補いながらその子の言いたいことを引き出したり、肯定的に取り上げたりすることで、子どもは自分の発言が認められたと感じ、授業への参加意欲が高まります。また、この方法は、物事をイメージしたり、言葉で表現したりすることが苦手な子どもへの手助けにもなります。

子どもの発言に言葉を補う際には、子どもの思いを十分に推し量り、その子の考えを引き出すように対応することが大切です。

#### 【工夫点】

- ・子どもの発言を肯定的に受け止める。(小中高)
- ・子どものつぶやきを大切にする。(小中高)
- ・子どもの発言を全体で取り上げたり、板書に生かしたりする。(小中高)



子どもの発言には誤答もありますが、「ここまでは合っているね」と、できているところを見つけて褒めるようにしたり、深く考えていることを褒めたりすることで、子どもたちに、「間違っても大丈夫だ」というメッセージが伝わり、自信のない子どもも、自分の考えを発言しやすくなります。

子どもの反応が少ない理由の一つに、「自分の言いたいことがあっても、どのように答えたらよいのか分からない」ということがあります。ヒントを言葉で伝えたり、板書したりすることで、子どもは自分の考えを言葉で表現しやすくなります。

